

夢みるこども基金だより

No. **2**

平成9年
9月20日

発行：夢みるこども基金事務局

〒810 福岡市中央区赤坂1-12-6赤坂Sビル2F ☎092-751-0021 FAX092-751-0249



'97 夢みるこどもキャンペーン 今年初めて福岡で開く バン格拉デシユに学校建設

「世界のこどもと手をつなごう」国境を越えたこどもたちの集いは夢、熱意と感動に包まれた(福岡市大手門会館の開会式)

歯の金属冠リサイクルでこどもたちの夢をかなえ、福祉にも役立てる「夢みるこどもキャンペーン」(主催・夢みるこども基金)理事長・中原爽日本歯科医師会長の三回目のイベントが七月二十一日、二十二日の両日、福岡市内で開かれました。

初日は、同市中央区の大手門会館で行われ、昨年に続き、難病の筋ジストロフィーの少年たちの合同演奏と、基金の、理事の一人であるアグネス・チャンさんの共演もあり、少年たちの熱っぽい演奏と、アグネス・チャンさんのさわやかな歌声が会場に広がり、観客たちを感動に包み込みました。

今年の世界の子どもと手をつなぐことをテーマに選び、その第一歩として、バン格拉デシユに学校を建設することを決め、建設資金を贈ることになりました。これに、もう一つ、ネパールでの歯科医療に取り組むボランティア団体への援助を決めました。

この日、会場にはバン格拉デシユのカラムデイ村から先生と中学生、小学生計三人を招き基金理事長代行の持山彌之助・福岡県歯科医師会会長が直接、学校建設資金の二百万円の目録を手渡し、ネパールへ歯科医療へでかけている、ボランティア団体の代表者にも援助資金を贈りました。

二日目は、こども会議の参加者や付き添いの父母、役員、ボランティアアらが、福岡市の油山牧場へ貸し切りバスで出掛け、乗馬体験などで自然の中で楽しい時間を過ごしました。

夢みる子ども基金理事長
日本歯科医師会会長



中原 爽

一九九四年二月、齒の金属冠リサイクルでこどもたちの夢をかなえ、併せて福祉にも役立てようとの願いからスタートした「夢みる子どもキャンペーン」は四年目に入りました。

各方面から「ユニークなキャンペーン」と注目されましたが、全くと手探りでの出発でしたが、皆さまのお力添えで力強く成立しています。すでに三回、毎年正月に全国のこどもたちから「かなえたい夢」を作文やイラストで募集。春休みに「こども会議」を開いて、実現する夢を決定。そして夏休みに夢を実現するイベントを開いています。

ご存じの通り一回目は、阪神大震災の子を上げます「阿蘇こども出会いの里」、二回目は難病の筋ジストロフィーの少年バンドのコンサート「阿蘇こどもみどり村」を、いずれも熊本県阿蘇・久木野村で開きました。

今年、基金の初めての海外事業としてバングラデシュ・カラムデイ村に「夢みる子ども基金学校」をつくり、プレゼントすることに

福岡で初めて開催

世界へ広がる子どもの夢

夏のイベントの第一回目は、阪神大震災の孤児たちを熊本県阿蘇・久木野村へ招待した「阿蘇こども出会いの里」(95年)、二回目は筋ジストロフィーを同村の野外劇場「アスペクタ」の大ステージに招いた「阿蘇こどもみどり村」と、二年間続けて、舞台は阿蘇でした。それを今年、舞台を福岡市に移しました。これは夢みる子ども基金の活動を、もつと大勢の人たちに知ってもらうためのもので、新聞社やテレビ各社が取材に駆けつけ、一般の入場者も多く、大成功でした。

今年も全国の小中学生から「あなただけかなえたい夢」を公募して、その中から、テーマを「世界のこどもと手をつなごう」と決め、海外の恵まれないこどもたちへ何らかの手を差し延べようとの狙いから、福岡で春休み中に「こども会議」を開き、ここでバングラデシュのカラムデイ村に学校を建設することにして、資金二百万円を寄贈することになりました。

カラムデイ村は、首都ダッカの西にあたり、村には二つの国公認の学校があるものの、その他はいずれもかやぶきで、雨が降れば洪水

水で流されるなどして授業が出来ないそうです。そこで、福岡市の市民グループ「バングラデシュと手をつなぐ会」の橋渡しで、学校を建設することになりました。カラムデイ村は、基金が贈った資金をもとに十一月からレンガ造りの校舎四教室の建設にかかり、来年春に完成。「夢みる子ども基金学校」の看板を



バングラデシュのこどもたち(中央2人)に学校建設資金の目録を渡す
持山基金理事長代行

掲げることになっています。

この日、バングラデシュから二人の子どもたちとともに、カラムデイ村からやってきたホスルール・ホック私立カラムデイ中学校の副校長は「大勢のこどもたちが、わが村では床に座って勉強しています。今回の援助に大変感謝します。学校ができたなら、是非皆さん、見に来てください。」と挨拶しました。

「こども会議」メンバー十六人が出席したが、作文コンクールでも優秀な成績だった筑紫女学園中三年生の小林夏織さん(十四)が、参加したこどもたちを代表して「これからも世界のこどもたちと友好の輪を広げたい」と力強い言葉で挨拶しました。

このあと、ネパールで歯科医療の活動を続けているボランティア団体「ネパール歯科医療協力会の中村修一助教授(九州歯科大)が、活動資金として基金から三十万円の助成金を受け取ったあと、ステージに立ち現地の実情を説明したうえで、「ネパールのこどもたちに、歯磨きの習慣を浸透させたい。このために啓蒙運動をやりたい。」と話していました。

筋ジストバンドも熱演

こども基金の理事で、テーマソング「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」を作った、アグネス・チャ

なり、バングラデシユから三人のこども、教師を招いて目録を贈呈。これに昨年の筋ジスバンドのこどもたちが加わり、交流を深めました。また、ネパールで歯科医療のボランティア活動を続けているグループへも活動資金を贈りました。

基金がいよいよ地球規模で歩きだしたと言えるのではないでしょう。これも多くの方が、キャンペーンの趣旨に賛同し、協力して頂いたお陰です。

特に不要になつた金属冠を基金に送って頂いている歯科医院のご協力なくしてはこのキャンペーンは成り立ちません。キャンペーン参加歯科医院は年々、増えてはいますが、まだ千四百を超えた程度です。もっとたくさんさんの歯科医院に参加いただき、更にこどもたちの無限に広がる夢を実現したいと思います。そして私たちもこどもたちと同じ夢を見ながら、希望に満ちた二十一世紀を目指したいと思います。皆さまのご協力を重ねてお願い致します。



今年も感動を呼んだアグネス・チャンさんと筋ジス・バンドの合同演奏

ンさんは三年連続の出席で、筋ジスのこどもたちのバンド「パッションズ」(宮崎市、国立療養所宮崎東病院)、「ミラクルボーイズ」(熊本県西合志町、同再春荘病院)と一緒に、合奏したり、会場のこどもたちと歌を歌つたして交流を深めました。バングラデシユからやって来たホック副校長ら三人もステージで感謝の気持ちを込めて、カラムデイ村の代表曲を披露して会場から大きな拍手を浴びました。

こども会議のこどもたちと、その両親や身内の方々、それにボランティア関係者ら百五十人が出席、見守るなかで、三浦吉十さんの軽妙でスピーディーなパフォーマンス絵画をこどもたちとともに楽しんだあと、フィナーレでは、再びアグネス・チャンさんがステージへ。世界のこどもたちの実情や、最近中国に返還された、故郷の香港の話語りかけながら、弾き語りで歌を交え、巧みなギター演奏もあって、会場の人たちを心温まる世界へいざなっていました。

最後に、世界に目を向け地球規模のキャンペーンを積み上げていくことを、'97こども宣言で誓い、一日を終わりました。

二日目は、貸切バスで福岡市近郊にある油山牧場へ出掛け、乗馬を楽しんだり、初体験の乳搾りに大喜びで、こどもたちは自然のなかで大はしゃぎでした。

'97夢みるこどもキャンペーンこども宣言

私たちの小さな夢が多くの人たちの協力で実を結び、今日、私たちは福岡市に集い、夢みるこどもキャンペーンの三回目のイベント「世界のこどもと手をつなごう」を開きました。

全国十六人の「こども会議」のメンバー、二十人の筋ジストロフィーの少年バンド、それに遠くバングラデシュから参加してくれた二人の子供と先生。お互いに顔も名前も知らない、言葉も違う、初めての出会いでしたが、すぐに心が通い合い、友達になれました。

みんな同じ心と、人を思いやる優しい心を持ち、夢に向かって一生懸命生きていくからだと思います。厳しい環境にも負けず、伸びやかで純朴に生きるバングラデシュの子供たち、ハンデを乗り越えて努力し、命の大切さを教えてくれた筋ジストロフィーの子供たち。

短い時間でしたが、私たちは今日ここに集い、出会った、あの顔、あの声、あの言葉、あの笑顔、を決して忘れることはないでしょう。たくさんのひとと出会えて幸せでした。

私たちは一人ではありません。いつも多くの仲間がいることを実感しました。夢みるこどもキャンペーンは今日一日だけのものではありません。一人でも多くの人たちが夢を、優しさを、忘れず、今日を出発点にして、世界中の人たちが手をつなぎ、希望にあふれた二十一世紀にしたいと思います。

一九九七年七月二十一日

夢みるこどもキャンペーン

「世界のこどもと手をつなごう」

参加者一同

水害でも流されない学校をー。

バングラの子どもたち

皆さんバングラデシュという国をご存じですか？インドの東側に位置し、一九七一年にパキスタンから独立した新しい国です。

面積は日本の約40パーセントしかないのに人口は日本とほぼ同じで、非常に人口密度が高くなっています。人々の生活は貧しく、道

路も、水道も、建物も日本のように整備されておらず、農村地帯では病気になっても十分な診療を受けられなかったり、義務教育は小学校（5年間）となっていますが、実際には三分の一程度の子供しか学校にいけないそうです。また、アジア・モンスーン地帯

で雨季と乾季がありますが、年中暑い国です。雨季には度々洪水に見舞われてせつかく建てた家や、学校、病院が流されてしまいます。しかし、洪水のおかげで豊かな実りを得ているのも事実です。国民の大部分が農業か漁業に従事しています。

主に縫製品、ジュート（繊維状の植物）、皮革製品、魚介類を輸出しています。

日本滞在日記

今回のイベントには夢みるこども基金の招きで、バングラデシュのカラムディ村から、私立カラムディ中学校のホスルール・ホック副校長、同校一年フマアン・カビル君（十二）、同校二年ライラ・ビルキスさん（十二）の三人が参加してくれました。

カラムディ村は首都ダッカからバスで八時間の所にあります。そこには、約千三百人の小学生がいますが洪水に見舞われても流されない、頑丈な学校は二つしかないため、教室で学ぶことができるのは八百人だけ。他の五百人の子供たちは学校に行けなかったり、ワラ葺き屋根の学校で、勉強しているそうです。



長崎市の平和公園を訪れた（左から）ホスルール・ホック副校長、ライラ・ビルキスさん、フマアン・カビルくん



アグネス・チャン

「こどもたちに夢をー」を合言葉にスタートした夢みるこどもキャンペーンは、歯科医院を中心に、協賛企業、ボランティアなど多くの方々のご協力でキャンペーンの輪が着実に広がっています。

私も、このキャンペーンの趣旨に賛同し、第一回から、春休みに開かれる「こども会議」、そして夏のイベントなどにすべて出席してきましたが、小さな胸に夢をふくらませ、目を輝かせながら、全国各地からやって来るこどもたちにも感動しています。

一回目の阪神大震災で親を亡くしたこどもたち、二回目の難病と闘う筋ジストロフィーの子ら。そして三回目の今回、遠くバングラデシュから来てくれた二人のこどもと教師。その仲間をいつも笑顔で迎える「こども会議」のメンバー。そのひとり一人のこどもたちの目の輝きは、私の心の中に焼ついていきます。

現代に生きるこどもたちに欠けているものは「夢みる心」だと思います。その夢をはぐくみ、夢を実現させる勇氣と楽しさを提供する、このキャンペーンはすばらしいと思います。

「夢」を持つことは、こどもたちばかりでなく、大人にとっても大事なことです。みんな、夢があるから少々辛いことや困難にぶつかっても前に向かって、明日を信じて生きて行けるのではないのでしょうか。

夢みるこども基金は、今年はバングラデシュでの学校建設、ネパールでの歯科診療グループへの助成と、海外を舞台にした活動にも踏み出しました。私も皆さまと一緒に頑張りたいと思いますので、一層のご支援をお願い致します。

(5)

三人は来日した次の日から、長旅の疲れも見せず、福岡市の主婦らで組織する「バングラデシュと手をつなぐ会」の方と一緒に福岡教育大学附属小中学校を訪問しました。小学校では、四年生の生徒たちとの交流会に参加し、お互いの国の遊びを紹介し合いました。中学校では、音楽、技術、家庭科などの授業を見ました。

福岡市の観光スポットにも足を伸ばし、キャナルシティや、福岡タワー、アクロス福岡の屋上にも上り市内を一望して「とてもきれいな街だな！」と感動していたようです。日本の街の清潔さや高いビル、快適な電車やバスにも驚いていました。

バングラデシュの教科書に必ず出てくる日本の地名があります。それは、原爆を投下された広島と長崎です。広島までは少し遠いことから長崎を訪れました。原爆資料館や、平和公園を見学した後で、ホック副校長は「大変恐ろしいものだった。人類はこのことを、決して忘れてはいけない」と話していました。

夢みるこどもキャンペーンのイ

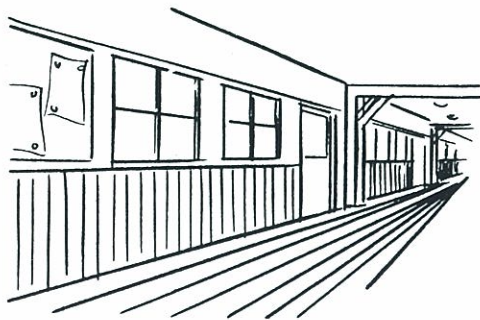
ベントでは、バングラデシュの歌を歌い、日本語で「ありがとう」と言いつて微笑んだ三人から純朴で、温かい心が伝わって来ました。二人の子供たちは筋ジストロフィーのバンド演奏を聞いて「困難を乗り越えて頑張っている姿がとても印象的だった」と話していました。

一週間という短い日程でしたが、三人が「たくさん夢」を日本で育んでくれたことを祈りながら福岡空港へ見送りに行きました。「さようなら」と何度も繰り返し返した笑顔がとても印象的でした。改めて、子供たちの笑顔は全世界共通であることを実感しました。

君は大地を

三浦 吉十

君は風になる
君は水になる
君は若葉になる
そして
胸いっぱい気を吸う
眩しいほどの陽光を浴び
大地を着実に歩いて行くはずだ
知らない物達や小さな生き物達と
語り合うことが出来るはずだ
命の尊さを分かち合うことが
出来るはずだ
土を 木を 水を 君は
手にとって抱きしめる
そして
そよぐ若葉を みどりを
頬にあて
君はオオルリのように歌う
大地の上の君の笑顔は真実だ



マスコミ七社が取材

七月二十一日から一泊二日の日程で、福岡市内で開いた「77夢みることどもキャンペーン」世界のこどもと手をつなごう」のイベントを、テレビ四社（NHK福岡放送局、KBC九州朝日放送、FBS福岡放送、RKB毎日放送）と新聞三社（朝日、毎日、読売）が取材してくれました。テレビは夕方から夜にかけてのニュース番組の中で、新聞は社会面や地域版で大きなスペースでそれぞれ紹介して頂き、役員や事務局スタッフらも「キャンペーンが市民権を得た」「キャンペーンが輪が広がる」と喜んでいきます。今後ともマスコミ各社のバックアップをお願いして行きたいと思っています。

パンダラシ

小中生りを切
20万円目標
夢みることども
キャンペーン

7月22日 火曜日

バンダラシに学校を
ネパールの医療にも協力
夢みることどもキャンペーン
第3回 こどもの夢
1997年(平成9年) 7月22日

夢みることどもキャンペーン
20万円目標
小中生りを切

夢みることどもキャンペーン
第3回 こどもの夢
1997年(平成9年) 7月22日

夢みることどもキャンペーン
第3回 こどもの夢
1997年(平成9年) 7月22日

夢みることどもキャンペーン
第3回 こどもの夢
1997年(平成9年) 7月22日

NHKラジオでPR

夢みることども基金の古市悟顧問(初代事務局長)が、夏のイベントを控えた七月十四日、NHKラジオの全国放送に生出演、夢みることどもキャンペーンのPRをしました。

古市氏は、午後六時からの「NHKラジオオタ刊」に同六時四十分から約十分間出演。男女二人のキャストととの対談形式で、キャンペーンの目的や運営形態、それにこれまで三年間に実施した「こども会議」、熊本県阿蘇・久木野村で開いた二回のイベント、さらに三回目の福岡市でのイベントの内容などについて説明。「もっと多くの人たちにキャンペーンに加わってもらい、大人も、こどもたちと一緒に夢が見れたらいいと思います」と結んだ。

放送を聞いた全国各地の人たちから「すばらしいキャンペーンだ」「感動した」などの電話が多数、基金に寄せられ、早速、キャンペーン参加の申し込みをした歯科医院もありました。

皿回し名人 “上野先生理事退任”

基金理事で、皿回し名人」としても人気があった西南学院大学教授、上野武さんが、六月二十四日の理事会で理事を退任されました。上野さんは、こどもの夢づくり

イベントの中心となる「夢作文」応募作品の審査をはじめ、これまでの基金イベントのすべてに参加され、精力的に活動されました。

昨年、熊本県阿蘇・久木野村で開かれた「阿蘇こどもみどり村」では、筋ジストロフィーの少年たちを励ますため、特技の「皿回し」を披露されました。

日頃大学の教壇で、多くの学生たちに接してこられた上野さんも、国内最大の野外ステージ・アスペクタと車椅子の筋ジストロフィー少年たち、全国から集まったこどもたちを前に、少し勝手が違ったのか、皿がうまく回ってくれませんでした。

それでも、上野さんは、床に落ち、転げて走る皿を拾い、何回も何回もやり直しました。会場の笑いが、やがて大きな拍手に変わり、夜の阿蘇の山野に、さわやかに響きわたりました。会場の少年たちに、おとなたちに、失敗が何だ、最後まであきらめな、と教えてくれました。

上野さんは、最後の理事会で「一年とってお手伝いしたのが、基金活動に打ち込んでいるうちに二年となりました。私自身、時間が許すかぎり、基金キャンペーンに協力したいと思います」と述べ、惜しまれながら退任されました。上野さんは、後任の理事に同僚の西南学院大学教授の中島和男さんを推薦されました。

キャンペーンの主催は「夢みることども基金」に

平成六年二月に実質的にスタートした夢みることどもキャンペーンは、これまで読売新聞西部本社、日本テレビ放送網、読売光と愛の事業団の主催として進めてきましたが、平成九年六月二十四日に開かれた理事会で、主催を「夢みることども基金」とすることが決まりました。

その理由は①平成七年三月二十九日付けで、中原爽・日本歯科医師会会長を理事とする「夢みることども基金」(人格なき社団)を創設し、ボランティア組織として独立した②読売グループだけでなく、マスコミ各社の広い支援を受ける形態にする一などからです。読売新聞西部本社、日本テレビ放送網も、今後とも紙面、電波でキャンペーンを支援していくことを約束しています。

